

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校教育の 3 本柱である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

1. 「確かな学力」の育成と授業改善

(1) 次期学習指導要領の実施や高大接続システム改革を踏まえて、大阪府教育振興基本計画の下、「確かな学力」の育成とそのための授業改善を進める。

ア 2018 年度に発足した校内の「授業力強化、ICT環境充実」プロジェクトチームを委員会組織に発展させ、持続的な授業改善をめざす。

※ 次期学習指導要領等を踏まえ、校内の「授業力強化、ICT環境充実」プロジェクトチームを委員会組織に発展させ、これによる授業改善をめざす。

※ 学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の回答を、2021 年度までには 80%以上にする (2018 年度 76%、2017 年度 69%)。

イ 「主体的・対話的で深い学び」実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。

※ 2021 年度までに 85%以上の教員が定期的に ICTを活用した授業を実施できるようにする (2018 年度 80%、2017 年度 59%、2016 年度 52%)。

※ 2021 年度までに 85%以上の生徒が ICTを活用した授業が多いことを実感できるようにする (2018 年度 81%、2017 年度 54%、2016 年度 53%)。

ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。

※ 学校教育自己診断における「授業の予習、復習は『できていない』」への生徒の回答を 2021 年度には 5%以下にする (2018 年度 10%、2017 年度 12%)。

エ 次期学習指導要領について、教職員一体になって、2019 年度からの先行実施分の推進や、2022 年度からの完全実施に向けての教育課程の検討を進める。

2. グローバル人材の育成

(1) 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校内外での英語使用機会を増加させる。

ア 英語の 4 技能の向上のために、校内・校外での英語暗唱・スピーチ大会開催や、校内での英語を使用する機会の増大、短期留学制度の創設等を推進する。

イ 校内外における英語使用機会の拡大策として、近隣大学の学生や留学生等との様々な交流機会の可能性を模索し、実施していく。

3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充

(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための、生徒、教職員、PTAの意識を醸成する。

ア 生徒、教職員、PTAに対する人権教育、人権意識醸成の機会や、情報モラル、メディアリテラシー等に関する適切な知識を得る機会を作っていく。

(2) 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるキャリア教育を充実させるとともに、希望の進路を実現させる。

ア 現状の学年毎の計画から高校 3 年間を見通した計画へと発展させ、さらに大学等への進学後のキャリア形成も織り込んだ指導を行う。

※ 卒業生の進学後の追跡調査等により、その分析結果を反映させた進路指導を行う。

※ 学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を 2021 年度まで 85%以上に維持する (2018 年度 85%、2017 年度 80%)。

イ 本校の伝統となっている、学習面を危惧することなく部活動ができる仕組み、環境を維持する。

※ 今後とも、新入生入学時の部活動加入率 90%を持続しつつ、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価を 2021 年度には 70%以上をめざす (2018 年度 62%、2017 年度 64%)。

ウ 生徒に、大学進学等のその先、10 年、20 年後を見越したキャリア形成や、社会での役割等を意識させるため、外部講師の講演や外部施設見学を推進する。

※ 潜在的には、国公立大学への進学希望が多いことに応えるべく、地方を含めた国公立大学の魅力や情報の提供が出来る機会となる講演会を実施する。

※ 生徒が憧れる京都大学や同志社大学等への訪問や講義受講、関連施設等の見学のほか、京都大学、同志社大学等出身の外部講師の講演を実施する。

エ 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるために、進路指導体制の充実をはかる。

※ 卒業直前までバランスのとれた学力を身につけさせるべく、2021 年度までに、大学入試センター試験の志願者を卒業見込み者の 80% (2018 年度 75%、2017 年度 69%) に、5 教科 7 科目での志願者を 40% (144/360 名) (2018 年度 31% (123/395 名)、2017 年度 24% (85/357 名)、2016 年度 16% (57/352 名)) に増加させることをめざす。

※ 2021 年度までに、国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者の 30% (108 名) 以上 (2018 年度 20% (78 名)、2017 年度 16% (56 名)、2016 年度 12% (44 名)) にし、現役合格者数を卒業見込み者の 10% (36 名) 以上 (2018 年度 5% (19 名)、2017 年度 6% (23 名) 2016 年度 4% (13 名)) をめざす。

4. 教職員の資質の向上及び授業力の強化

(1) 教職員研修を充実させるとともに、教職員の授業力向上のための施策を検討、実施する。

ア 教職員が、生徒を理解し、いじめについての相談を含め、個々の必要に応じた相談が受けられるように、教職員研修を充実させる。

※ 学校教育自己診断の「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒肯定率 100%をめざす (2018 年度 82%、2017 年度 78%)。

※ 学校教育自己診断の「牧野高校には悩みを相談できる場(人や)部屋がある」への生徒肯定率 80%以上を維持する (2018 年度 80%、2017 年度 72%)。

イ 生徒が、学力に加えて、豊かな人間性やたくましく生きるための健康・体力を身につけられるよう、教職員が生徒を指導する体制を持続する。

※ 体育祭・文化祭への肯定的評価について、2021 年度以降も 90%以上を維持する (2018 年度 89%、2017 年度 91%)。

ウ 学校経営支援グループが募集する「育成支援チーム事業」か、教育センターの「パッケージ研修支援」事業への応募体制を 2021 年度までに整える。

(2) 教職員の長時間勤務の縮減

ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事等の見直しや、「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の実施を徹底し、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は、前々年度から 69%⇒76%⇒77%となり、前年度より 1 ポイント改善、前々年度より 8 ポイント改善した。このうち「よくあてはまる」の回答は、前々年度から 9%⇒15%⇒16%となり、前年度より 1 ポイント改善、前々年度より 7 ポイント改善した。昨年度、普通教室と理科教室の全 32 教室に電子黒板機能付超短焦点プロジェクターの設置がされて、ICT を活用する授業の環境が整い、生徒がわかりやすいと感じる授業が増えていると考えられる。 ・「ICT 機器等を活用した授業を行っている」に肯定的な回答をした教員は、前々年度から 59%⇒80%⇒81%となり、前年度より 1 ポイント改善、前々年度より 22 ポイント改善した。このうち「よくあてはまる」の回答が、前々年度からは 18%⇒31%⇒36%となっていて、前年度より 5 ポイント改善、前々年度より 18 ポイントの改善となった。校内で電子黒板の利用法や電子ペンの使用方法に関する研修会を複数回開催したりしたことで、ICT 活用授業をする教員が漸増しつつあると思われる。 ・「ICT 機器やネットワークを利用した授業が多い」への生徒の肯定的回答も前々年度から 54%⇒81%⇒83%となり、前年度より 2 ポイント改善、前々年度よりも 29 ポイント改善した。このうち「よくあてはまる」の回答が前々年度から 11%⇒29%⇒36%となり、前年度より 7 ポイント改善、前々年度よりも 25 ポイント改善した。本校の ICT 環境改善の成果が出ていると考えられる。 ・「授業の予習、復習が『できている』、『まずできている』」を合計した生徒の回答は、45%⇒47%⇒49%と 2 年連続で増えて、改善し、『できていない』と回答する生徒は 12%⇒10%⇒9%へ減少した。少しずつ改善しつつあるものの、引き続き重要な課題という認識をしている。 ・「学校の授業以外で 1 日当たり平均学習時間が 2 時間以上」と回答する生徒は、1 年生で前年度の 13%から 20%（うち 3 時間以上が 2%から 6%）、2 年生は 20%から 24%（うち 3 時間以上が 4%から 7%）と向上したが、3 年生が 83%から 75%（うち 3 時間以上が 57%から 54%）へと減少した。3 年生が次年度からの大学入試制度の変更を控え、推薦入試等での合格者が増える安全志向になり、平均学習時間が前年より減った可能性がある一方で、1、2 年生は、家庭などでの学習時間が増加する者が多くなっているのは、頼もしいと感じている。 ・「学校の授業以外で 1 日当たり平均学習時間が 1 時間未満」と回答する生徒は、1 年生で 33%（前年度は 43%）、2 年生で 31%（前年度は 38%）で減少したが、3 年生が 11%（前年度 8%）と増えた。1、2 年生では、改善の傾向があるが、引き続き各学年での働きかけが必要と認識している。 ・「図書館が利用しやすい」に対する生徒の肯定的回答は前年度同様の 75%となった（1 年生 66%、2 年生 70%、3 年生 88%）。前々年度から見ると 66%⇒75%⇒75%⇒75%で改善された後よく維持できている。担当教員による努力の結果であり、現在は生徒の自習室としても良く利用されている。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校は楽しい」に対する生徒の肯定的回答は 92%（1 年生 94%、2 年生 92%、3 年生 91%）で、依然として高い水準を維持している。 ・「基本的な生活習慣（遅刻・規程遵守等）に対する指導には納得できる」の生徒の肯定的回答は、前々年度から、67%⇒77%⇒72%となり、このうち「よくあてはまる」は 25%⇒33%⇒30%となった。今後とも個々の状況に合わせた丁寧な対応をしていきたい。 ・「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定的回答は、前々年度から 80%⇒82%⇒83%となり、このうち「よくあてはまる」は 18%⇒27%⇒25%となった。同じ質問に対する保護者の肯定的回答も、84%⇒81%⇒85%となり、このうち「よくあてはまる」は 14%⇒18%⇒15%となった。生徒へ年 2 回行う「いじめに関するアンケート」等を使いながら、引き続きしっかりとした取り組みを続けていきたい。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」の生徒の肯定的回答は、前々年度から、72%⇒80%⇒76%となり、このうち「よくあてはまる」は 20%⇒30%⇒27%となった。こちらも学校として大事にしていきたい。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は前々年度から、77%⇒81%⇒78%となり、このうち「よくあてはまる」は 19%⇒27%⇒27%となった。進路に関しては特に、わかりやすい説明を心がけたい。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は、前々年度から 80%⇒85%⇒86%に増加、このうち「よくあてはまる」は 26%⇒32%⇒34%と一層増加することとなった。進路指導部や学年団の教員とともに、引き続きしっかりと取り組んでいきたい。 ・「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」への生徒の肯定的回答は前々年度から 75%⇒72%⇒72%であり、同じ質問への保護者の肯定的回答は前々年度から 72%⇒69%⇒72%であった。引き続き生徒への多様な機会の提供に努めたい。 ・「部活動は活発である」の生徒の肯定的回答は 94%、同じ質問への保護者の肯定的回答は 89%で、いずれも昨年と同率であった。 ・「部活動と学習の両立ができていく」への生徒の肯定的回答は、前々年度から 64%⇒62%⇒69%となり、このうち「よくあてはまる」は 19%⇒20%⇒22%と漸増することとなった。同じ設問に対する保護者の肯定的回答は、前々年度から 64%⇒62%⇒67%で、このうち「よくあてはまる」は 24%⇒22%⇒22%であった。今年度から、新たな部活動指針の導入による部活の時間の見直しを実施してきたが、各部活動は従来通りかそれ以上に好成績を収めている。生徒や保護者が学習との両立を困難に感じないよう、「ノークラブデー」の徹底等、新たな部活動指針に基づいた効率的で有効な部活動の時間としていきたい。 ・保護者では、「進路関係の保護者説明会は適切に行われている」に対する肯定的な回答が増えたり（83%⇒85%）、「牧野高校は、人権教育や人権問題に積極的に取り組んでいる」に対する肯定的な回答が増えたり（82%⇒87%）、「牧野高校は、家庭への連絡や保護者からの相談対応を適切に行っている」に対する肯定的な回答が増えたり（78%⇒82%）している。 	<p>【第 1 回】 令和元年 7 月 11 日 報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の合格者は 31 名（過去最高）であった。大学入試センター試験出願者は 69%から 76%に、国公立型（5 教科 7 科目）出願者は前年比 1.3 倍になった。5 教科 7 科目をしっかりと勉強する意識がこの 2 年間で少しずつ進んできた。 ・ICT 機器を活用した授業実践についての項目は 80%に現時点で到達しており、上方修正して令和 3 年度までに 85%越えをめざす。 ・英語使用機会の増加をめざして校内留学制度を創設した。 ・本年度は「牧野高校の授業はわかりやすい」の回答を 78%以上を目標にする。 ・オーストラリアの高校生を 1 名受け入れている（12 月まで 9 か月間）。関西外国語大学の留学生（アメリカ人 2 名）を 5～6 月に 4 週間受け入れた。 ・1 年生の「総合的な探究の時間」に京都大学防災研究所の准教授 2 名による講義を予定している。答えのないもの考えることが大切で、大学入試にもつながる。 ・「パッケージ研修」に応募し、授業力の向上のための取組みを進めている。 ・働き方改革については個人差はあるが、時間外が一昨年比で 1 割以上減っている。 <p>意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「牧野高校の授業はわかりやすい。」を上げるための具体的な対策は？ →ICT を得意とする先生が、簡単な使い方をレクチャーすることで、ベテランの先生の授業が変わってきていることが大きい。動画を見せるなど、これまでの授業スタイルとは違うものになっていることが、わかりやすいにつながっているのではないかと。単に提示するものだけになっていないかや、生徒のノートがどう変わっているかなどの検証は必要になるとと思われる。 ○パッケージ研修とはどのようなものなのか。 →校外に出る研修ではなく校内で行うもので、本校教職員が指導主事の助言を受けながら、年間計画を立て、研究授業、研究協議、全体研修などを企画・進行する年間通しての研修である。生徒の反応を見て授業の進め方等を考えていくような、教科を超えた学校全体で取り組む研修になる。 ○校内留学制度はどのようなものか。 →1 クラス 10 名程度で英語だけで半日を過ごす有料のもので、希望者はまだ少ないが、今年行ってみることで今後広がりをみせていくと考えている。 ・英語科でなく学校全体で取り組んでいることが良い。とても良い制度だと思うので定着化していったほしい。 <p>【第 2 回】 令和元年 12 月 11 日 報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領への対応について、校内に委員会を設置して検討を進めている。 ・1 年生では、1 学期途中よりオーストラリアの高校生を 1 名留学生として受け入れ、クラスと一緒に学校生活を過ごしたり、関西外国語大の 2 名のアメリカ人留学生をインターンシップ生として受け入れたり、校内でイングリッシュキャンプ（校内留学制度）を行ったりするなどの機会を設けた結果、1 年生の英語スピーチ大会もレベルアップが見られるようになってきた。 ・今年度は、北朝鮮による拉致問題についての人権学習を全学年の生徒向けに実施。また各学年とも年間 2 回、講演や映画鑑賞等による人権学習の機会を設け、人権意識を醸成している。 ・大学入試センター試験は、出願率、5 教科登録者率ともに大きく上昇した。また、11 月には 1 年生と 2 年生のそれぞれに外部講師による進路講演会を実施。1 年生に対する国立大学の魅力に関する講演は、同じ講師に午後から 1 年生の保護者にも講演をしていただき、200 名を大きく上回る保護者が参加し、進学に対する意識の高さが伺えた。 ・快適に過ごせる学校生活の環境づくりを目的に、バリアフリー化に着手し、二つの教室棟間と教室棟から体育館までの整備ができた。 ・ここ 3 年間で、超過勤務時間数も産業医の要面接人数も、ともに減少傾向にある。 <p>意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大学入試センター出願状況からみても国公立型が大きく増加し幅広い学習を志す生徒が増えているようであるが、3 年生の 3 学期の授業はどのようにしているか？ →午前中授業とし、午後は講習や補習の実施などに有効活用している。 ○授業アンケートの結果で教科別平均値が上昇しているが、その要因は何か？ →電子黒板が全普通教室に設置されてストレスなしに ICT を活用した授業ができるようになり、生徒が理解しやすくなってきていると考えている。またアクティブラーニングの導入など、授業の工夫も見られることが要因と思う。 ○超過勤務の実態についてはどうか？ →学校行事との兼ね合いやクラブ付き添いで時間増となることが多いが、産業医との面談やアドバイスは適切に受けている。 ○悩みを相談できる場所があることへの生徒肯定率 80%以上を維持するとあるが、いざというときに相談できる場所の確保に努めている。今年度より相談室委員会を発足させ、組織面を充実し、定期的に会議を開催することにより、生徒の就学支援をはじめ幅広く議論し、適切に対応できる体制づくりを進めている。いじめについても、全生徒にアンケートを年 2 回実施し、些細なことでも丁寧に情報収集と状況の把握に努めている。 <p>【第 3 回】 令和 2 年 2 月 19 日 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断では、多くの項目で肯定的評価の率が 1、2 ポイント上がっており、一昨年比で「よくあてはまる」の率が大きく伸びている。 ・第 2 回授業アンケートは、全ての授業の平均が 3.24 で、大きな変化は見られない。 ・超過勤務時間数は、前年度比で 1.7 ポイント下がっており、産業医による要面談対象者も前年度から大きく減っているので、働き方改革は進んでいるとみている。 ・平成 31 年度学校経営計画及び学校評価（案）について <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「牧野高校の授業はわかりやすい」への肯定的回答は、前年度より 1 ポイント改善、そのうち「よくあてはまる」の回答も 1 ポイント改善した。 ・「ICT 機器等を活用した授業を行っている」への肯定的回答は、前年度より 1 ポイント改善、そのうち「よくあてはまる」の回答は 5 ポイント改善した。本校の ICT 環境改善の成果が出ていると考えられる。 ・「授業の予習、復習が『できている』」の回答は増え、『できていない』の回答は減少した。「学校の授業以外で 1 日当たりの平均学習時間」については、前年度

府立牧野高等学校

比で1、2年生が増えているので、今後に期待したい。

[生徒指導]

- ・「牧野高校は楽しい」への肯定的回答は92%と依然高い水準を維持できている。
- ・「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への肯定的回答は生徒が1ポイント増の83%、保護者が4ポイント増の85%となった。今後もしっかりとした取り組みを続けていきたい。

[学校運営]

- ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」への『よくあてはまる』は増加している。
- ・部活動時間については新しい部活動指針に沿って見直しをしてきたが、「部活動と学習の両立ができている」の肯定的評価が7ポイント上昇の69%となった。一方で、例年以上に多くのクラブが好成績を収めている。
- ・令和2年度学校経営計画及び学校評価（素案）について
 - ・中期目標の設定においては、平成31年度の目標内容と大きな差異はない。
 - ・重点目標として挙げている項目については、以下の通りである。
 - ①新学習指導要領を踏まえたカリキュラムについては検討が終わり、ほぼ整備できた状態にあり、今後教科書の選定等を経て、令和4年度からの完全実施を迎えることができそうである。
 - ②国際教育推進委員会で、大阪府教育庁が実施する短期留学制度や他の留学制度を紹介するとともに、本校独自の短期留学の機会設定の検討を進める一方、様々なところからの留学生の受け入れや校内イングリッシュキャンプ実施等で校内での外国語使用機会の増大をめざしたい。
 - ③今年度に引き続き「パッケージ研修」に応募し、教員の授業力向上の研修機会を増やしたい。
- ・防災計画の見直しについて
 - ・現在、防災計画の見直しで、地域と連携して行う防災計画の検討や折衝、実施準備を進めており、新年度に策定の予定である。本校の近隣のハザードマップをもとに、枚方市の市民安全部危機管理室や市民活動室、近隣の第三中学校や牧野小学校と連携を取りながら、非常時の対応策を検討していきたい。

意見等

- 授業アンケートについて、クロス集計を行うことにより、高い評価を得た要因となるポイントや低い評価となった原因のポイントが見えてくるので、ぜひ取組んでいただきたい。
→今後に向けて、検討していく。
- 取組みの中にいじめに関する項目が設定されているが、実際の状況等はどのようなものか。
→いじめに関する生徒アンケートを年2回実施している。気がかりな回答についてはその内容を精査し、状況に応じてヒヤリングや見守りを行うなど、可能な限り早期対応、早期解決に努めている。
- 教員間のいじめや生徒へのハラスメントも気がかりではあるが。
→校内の対応部署や校外への通報部署を設けており、事象発生時に対応できるようにしている。生徒に対しては、教員による見守りやスクールカウンセラーからのアドバイスも受けながら、早期発見、早期ケアのためにきめ細かな対応を心掛けている。
- 学校に登校しにくい生徒は増えてきているか。
→過去に比べると増える傾向にある感じがしている。様々な原因が考えられ、家庭との協力、スクールカウンセラーの助言等を受けながら、情報を共有し学校全体で対応している。
- 1月21日に府立高校PTA協議会の事業として、府内9つの各ブロックのPTA会長が牧野高校を訪問し、校長先生からのプレゼンテーションをはじめ、校内施設や授業風景の見学などをしたが、参加者からはとても高い評価をいただいた。（PTA会長より）

府立牧野高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成と授業改善	(1) 「確かな学力」の育成と授業改善 ア 「授業力強化、ICT環境充実」委員会による授業改善 イ ICTを活用した授業推進 ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 次期学習指導要領の先行実施対応と完全実施への対応検討	(1) 次期学習指導要領の実施や、高大接続システム改革を踏まえて、「確かな学力」の育成すべく、2018年度発足の「授業力強化、ICT環境充実」プロジェクトチームを委員会組織へ発展させ、授業改善をめざす。 ア・「授業力強化、ICT環境充実」委員会により、持続的な授業改善を推進する。 イ・「主体的・対話的で深い学び」実現のために、校内ICT環境の一層の充実を図り、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大する。 ウ・入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。 エ・次期学習指導要領について、2019年度からの先行実施を推進するとともに、2022年度からの完全実施に向け、教育課程の改定の検討を進める。	ア・学校教育自己診断における「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の回答を、78%以上にする(2018年度76%)。 イ・85%以上の教員がICTを活用した授業を実施できるようにする(2018年度80%)。 ウ・学校教育自己診断における「授業の予習復習は『できていない』」の生徒回答を8%以下にする(2018年度10%、2017年度12%)。 エ・次期学習指導要領の内容に先行実施分の推進と、完全実施の準備を行う。	ア・『パッケージ研修導入に係る授業改善委員会』を設置し、授業改善に係る校内研修活動等の結果、「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答は77%に増加した。(△) イ・同上のICT活用に係る校内研修等の結果、「ICT機器等を活用した授業を行っている」に肯定的な回答の教員は81%だった。(△) ウ・予復習習慣の重要性を機会の度に生徒に伝え、「授業の予習、復習はできている」への生徒の肯定的回答は前々年度から45%⇒47%⇒49%に増加の一方、「できていな」生徒は前々年度から12%⇒10%⇒9%に減少した。(△) エ・4月に校内に「新教育課程対応推進委員会」を発足させ、新学習指導要領への対応における新カリキュラムの設定他に関し、校内で定期的にかつ頻繁に議論検討し調整した、実施への準備が進んだ。(○)
2. グローバル人材の育成	(1) 校内外での英語使用機会の増加 ア 校内外英語使用機会増大 イ 近隣大学の学生や留学生等との英語交流	(1) 国際共通語としての英語による生徒のコミュニケーション能力を本校に在学中に可能な限り習得させるために、校内外における英語の使用機会を増大させる。 ア 校内外での英語の使用機会の増大と、NETの一層の活用を推進する。 イ 近隣の大学の学生や留学生などとの英語による交流機会等の可能性を模索、実施する。	ア 校内・校外での英語暗唱・スピーチ大会開催や新たに短期留学制度の創設等を推進する。 イ 近隣大学の学生や留学生などとの英語による交流機会を模索、実施、拡大する。	ア・7月に1年生6名が教育庁主催オーストラリア研修に参加。7月に校内イングリッシュキャンプ2日間開催。11月に校内英語暗唱大会開催。(◎) イ・5月オーストラリアの高校生を9か月間受入れ。5月～6月に関西外国語大学の2名の米国人留学生のインターンシップを4週間受入れ。10月にオーストラリアの別の高校生を3日間受入れ。11月マレーシアの高校生2名を1日受入れ。(◎)
3. 生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充	(1) 多様性、共生のための、意識の醸成 ア 生徒、教職員、PTAの人権意識醸成、情報モラル等に係る知識習得機会の開催 (2) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア キャリア形成意識の醸成のためのキャリア教育充実と進路指導強化 イ 学習と部活動を両立する伝統の維持継続と生徒の顕彰 ウ 大学進学等の先を見越したキャリア形成と意識づけのための外部講師の講演や、外部施設見学の推進 エ 入学から卒業まで、全教科で学力をつけさせる指導体制の充実	(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための、生徒、教職員、PTAの意識を醸成する。 ア 生徒、教職員、PTAに対する人権教育、人権意識醸成の機会や、情報モラル、メディアリテラシー等に関する適切な知識を得る機会を作っていく。 (2) 生徒に、大学進学等のその先、10年後、20年後を見通したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるキャリア教育を充実させるとともに、希望の進路を実現させる。 ア・現状の学年毎の計画から高校3年間を見通した計画へと発展させ、さらに大学等への進学後のキャリア形成も織り込んだ指導を行う。 ・卒業生の進学後の追跡調査等により、その分析結果を反映させた進路指導を行う。 イ・本校の伝統である学習面を危惧することなく部活動ができる仕組み、環境を維持する。 ・学習面と部活面の両面で成果をあげた生徒の顕彰をする。 ウ・生徒に、大学進学等のその先、10年、20年後を見越したキャリア形成や、社会での役割・使命を意識させるため、外部の講師による講演や外部施設の見学を推進する。 ・潜在的には、国公立大学への進学希望が多いことに応えるべく、地方を含めた国公立大学の魅力や情報の提供が出来る機会となる講演会を実施する。 ・生徒が憧れる京都大学、同志社大学等の訪問や大学内での講義の受講体験を進める。 ・京都大学等の関連施設等の見学などのほか、京都大学、同志社大学等出身の外部講師による講演を実施する。 エ 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるために、進路指導体制の充実をはかる。 ・卒業直前までバランスのとれた学力を身につけさせるべく、大学入試センター試験の志願者と、5教科7科目志願者数の増加をめざす。 ・国公立大学の現役受験者数、現役合格者数の増加をめざす。 ・国公立大学と本校生が多く志望する私立大学への実進者数の増加をめざす。	(1) 多様性、共生のための、意識の醸成 ア 生徒、教職員、PTAの人権意識醸成等に関する適切な知識習得機会を2019年度中に複数回行う。 (2) キャリア教育の充実と希望進路の実現 ア・学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答を85%以上に維持する(2018年度85%)。 ・「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」の肯定的回答を75%以上にする(2018年度72%) イ・2019年度以降も、新入生入学時の部活動加入率90%を持続しつつ、生徒向け学校教育自己診断等での学習と部活動の両立に対する肯定的評価を65%以上にする(2018年度62%)。 ウ・地方を含めた国公立大学の魅力や情報の提供が出来る機会となる講演会実施 ・京都大学、同志社大学等の訪問、講義受講体験実施。 ・京都大学等の関連施設(京大防災研究所宇治川ラボ、京都大学農場等)の訪問。 ・京都大学、同志社大学等出身の外部講師の講演実施。 エ・大学入試センター試験の志願者数を卒業見込み者の77%以上(2018年度75%)、5教科7科目の志願者数を卒業見込み者の35%(2018年度31%)をめざす。 ・国公立大学の現役受験者数を卒業見込者の25%(90名)以上、現役合格者数を8%(30名)以上をめざす。(2018年度5%(19名))	(1) ア・生徒は学年ごとに、また教職員はこれとは別に、今年度中にそれぞれ2回以上、人権意識の醸成に資する講演会や映画鑑賞、ワークショップ等を行った。特にアニメ「めぐるみ」は、教職員が鑑賞した後、全学年の生徒が鑑賞し、拉致問題に係る人権意識を醸成した。 PTAは独自の社会見学行事等を年2回行う他に、PTA役員は全国大会やブロック集会の中で、人権に関する講演等に参加した。(○) (2)・ア・外部講師講演会や各種研修会等を実施の結果、学校教育自己診断での「将来の進路や生き方について考える機会がある」への生徒の肯定的回答は前々年度から80%⇒85%⇒86%と増加、このうち「よくあてはまる」は26%⇒32%⇒34%と一層増加する結果となった。(◎) ・1、2年生はそれぞれ、外部講師によるキャリア教育の講演会や、職種別の説明会を実施したが、「キャリア」の認識が難しく、生徒の「牧野高校はキャリア教育に積極的に取り組んでいる」への肯定的回答は前年同様72%であった。(△) イ・学校評価自己診断で「部活動は活発である」の生徒の肯定的回答は、前年同様94%であったが、新年度からの新たな部活動の指針の実施等の結果、「部活動と学習の両立が出来ている」に対する肯定的評価は、前々年度から64%⇒62%⇒69%となり、増加した。(◎) ウ・3年生に対し地方を含めた国公立大学の魅力や情報の提供をすべく、前年度3月に2年生も一緒に、香川大学の教授による講演会を実施した。また、11月には1年生とその保護者を対象に、国公立大学の魅力に関する香川大学教授の講演会を行い、200名以上の保護者が参加した。(◎) ・9月にPTAによる京都大学と京都教育大学、同志社大学の訪問を実施し、12月は1年生に京都大学と同志社大学を訪問して講義を受講する体験入学を実施したところ、94名が参加した。(○) ・京都大学防災研究所から水害と地震の最先端の研究者である2人の准教授を招聘し、1年生の「総合的な探究の時間」で講義していただいた。(◎) ・同志社大学出身のフリーアナウンサーである八木早希の講演を10月、1年生に実施した。(○) エ・大学入試センター試験の出願者数は77.4%となり、このうち5教科7科目での出願者数は卒業見込者の40%(142/354名)となった。(◎) ・国公立大学の現役受験者数は卒業見込者の18%(63名)、現役合格者数は4%(14名)となった。(△)

府立牧野高等学校

<p>4. 教職員の資質の向上及び授業力の強化</p>	<p>(1) 教職員研修の充実、授業力向上の施策の検討、実施 ア 相談能力養成のための教職員研修充実 イ 生徒が学力に加え、豊かな人間性やたくましく生きるための健康・体力を身につけられる体制持続 ウ 教員力向上のための研修体制の整備</p> <p>(2) 教職員の長時間勤務縮減 ア 校内行事の見直しや、「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の実施を徹底、推進</p>	<p>(1) 教職員研修を充実させるとともに、教職員の授業力向上のための施策を検討実施する。 ア・教職員が、生徒を理解し、いじめについての相談を含め、個々の必要に応じた相談が受けられるように、教職員研修を充実させる。 イ・生徒が、学力に加えて、豊かな人間性やたくましく生きるための健康・体力を身につけられるよう、教職員が生徒を指導する体制を持続して行く。 ウ・教員力向上のため、学校経営支援グループが募集する「New 育成支援チーム事業」、または、教育センターの「パッケージ研修支援」事業への応募体制を整備する。</p> <p>(2) 「働き方改革」や、健康管理の観点から、校内行事の見直しを行うとともに、「全校一斉退庁日」や、「ノークラブデー」の実施を徹底し、教職員の長時間勤務を縮減する。 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事等の見直しを行うとともに、教職員の意識改革を図り、「全校一斉退庁日」、「ノークラブデー」の実施を徹底、推進していく。</p>	<p>(1) 教職員研修の充実、授業力向上の施策の検討、実施 ア・生徒向け学校教育自己診断結果の「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への肯定率 100%をめざす。(2018年度 82%) ・生徒向け学校教育自己診断結果の「牧野高校には悩みを相談できる場(人や)部屋がある」への肯定率 80%以上を持続する(2018年度 80%、2017年度 72%)。 イ・体育祭・文化祭への肯定的評価について、90%以上にする。(2018年度 89%) ウ・「育成支援チーム事業」か、「パッケージ研修支援」への応募体制を整備する。</p> <p>(2) 教職員の長時間勤務縮減 ア・「働き方改革」の観点から、教員負担になっている部活時間の見直しや校内行事の見直し、廃止等を実施する。 ・実行性のある働き方改革の施策を立案、実施する。</p>	<p>(1) ア・生徒への「いじめに関するアンケート」の年度内 2 回の実施と、アンケート結果に対する丁寧な対応をした結果、学校教育自己診断の「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」への生徒の肯定率は、100%とはならなかったものの、前々年度から 80%⇒82%⇒83%となり、同じ質問に対する保護者の肯定的回答も、84%⇒81%⇒85%となった。(△) ・学校教育自己診断の「牧野高校には悩みを相談できる場(人や)部屋がある」への生徒の肯定率は前々年度から、72%⇒80%⇒76%となった。期中に「相談室委員会」を新設し、生徒の個別の悩みに対する対応の体制を強化したが、今後とも丁寧な対応と体制整備を進めたい。(△) イ・学校教育自己診断の体育祭への肯定的評価は、生徒 89% (前年度 88%)、教員 86% (前年度 92%)、保護者 92% (前年度 91%) であった。(△) ・学校教育自己診断の文化祭への肯定的評価は、生徒 86% (前年度 89%)、教員 84% (前年度 90%)、保護者 89% (前年度 90%) であった。学校行事と学業の両立をめざす中で、行事に費やす総時間と満足度の調整を図りたい。(△) ウ・授業力強化のための新たな「パッケージ研修導入に係る委員会」を校内に設置し、本年度のパッケージ研修 I に応募、採用され、実施した。6月と9月に研究授業と研究協議を実施、9月には全教科横断の研修会を行った。(◎)</p> <p>(2) ア・今年度は以下の施策を実施した。 ①職員会議のデータベース化、ペーパーレス化による会議時間変更。②部活動の実施指針に基づく年間実施日数や活動時間の圧縮。③電子黒板導入による教材等の一部共有化・効率化。(○) ・これらの結果、教職員一人あたりの超過勤務時間数は、全前年度比で 100⇒91.1⇒88.2 と前年度比 3%、前々年度比 12%の削減ができた。(◎)</p>
-----------------------------	--	---	--	---